

理工学研究科博士前期課程2年の久木留貴裕さんが優秀論文発表者賞を受賞

平成20年9月26日(金)～27日(土)に今治村上水軍博物館ホールで開催された地盤工学会四国支部平成20年度技術研究発表会において、森 伸一郎理工学研究科准教授が指導する理工学研究科博士前期課程生産環境工学専攻2年生の久木留貴裕さんが、地盤工学会四国支部技術研究発表会優秀発表者賞を受賞しました。

口頭発表の論文は、「2003年十勝沖地震で長周期地震動の観測された勇払平野における常時微動測定」と題したものです。この研究は、主に大規模平野にある超高層建物や大型石油タンクの地震被害の観点から最近注目されている長周期地震動が卓越する北海道の勇払平野で、常時微動測定を行い、地震観測との両面から、長周期地震動の卓越する地盤でも、通常の構造物の固有周期に影響のある短周期地震動の大きさも同じく重要であることをあらためて示した点が評価されたものです。久木留さんの絶え間ない熱心な研究と努力が実り、今回同賞を2年連続しての受賞となりました。



賞状

工学部